

【目的】近年、大学生による違法薬物乱用事件の摘発が相次いでいることから大学が違法薬物乱用防止を訴える講演会などを設ける動きが広がっている。薬物乱用の背景の一つは違法薬物の弊害について正しい知識が十分に理解されず好奇心から安易に使い始めることが挙げられる。本学薬学部では6年制薬学教育のスタートを機に、初年次教育の一環として「薬学入門Ⅰ」の中で専門家による薬物乱用防止講義を行っている。本年度、薬物乱用防止教育をさらに充実するために講義とその後に問題基盤型学習(PBL)を組み合わせたハイブリッド型PBLを実施した。今回、本年度の薬物乱用防止教育の取り組みとその評価について報告する。

【方法】違法薬物について準備講義として、薬毒物学の観点からの講義と元麻薬取締員による薬物乱用防止講義を行い、その後に問題基盤型学習(PBL)を実施した。学生達は課題を決め自ら学習した成果を発表し、自己学習した成果は学習レポートとして提出した。

【結果と考察】レポートには「薬学生としての意識を持ち薬物に関する正しい知識を得ることで違法薬物に対する恐怖を持ち誘惑されても迷いのない意思を持つ」と書かれ、違法薬物に関する正しい知識を学生達が自ら学習することで理解を深めるという本年度の取り組みが薬学生の違法薬物乱用防止教育として有効であることが示唆された。